

全体会

in 知遊館

11月21日、加悦、岩滝、野田川地域の参加者が一堂に会して全体会を開催しました。会議のテーマは「全町単位あるいは近隣市町との連携で必要なサービス（施設）のあり方」。今回は会議内容を見える化するため、グラフィックレコーディングを導入した。



第1部 — 地域別会議の中間発表 —

各地域での2回の会議を終え、中間発表として進捗状況や主な意見等を共有。公共施設は住民のものであり、住民福祉の増進が目的であることから、単純に施設を削減すればいいというものではないこと、だからこそ多様な方々からの意見を集めることの重要性を改めて参加者で共有しました。

一緒に話し合う場が重要

福知山公立大学教授 谷口知弘氏

※グループ1・2・3での主な意見
▼庁舎は1カ所でよいが、オンライン化を進める必要がある。しかし、高齢者はオンラインに慣れていないため、公民館へ役所が回っていく「移動窓口」があればよい。

▼にぎわいづくりとして、「子育て世代」「高校生」「カフェ」「楽しむ」「交流する」といった機能と駅をどうくっつけることができるか。駅はリアルな電車の駅なのか、駅のような場所をみんなで作るのは今後の検討課題。

▼大事なことは財政を考えながら実行していかなければならず、夢物語ばかりではないけない。すべてを税金のみで実現することは難しいため、事業化して収益を得ていく方向性も必要。

第2部 — 各地域のファシリテーターから「集約・複合」の先進事例紹介 —

【山形県長井市】
鉄道駅一体庁舎

【岩手県紫波町】
オガールプロジェクト

【兵庫県西脇市】Miraie（みらいえ）
【新潟県三条市】ステージえんがわ

市役所庁舎・交流拠点・駅・広大な駐車場を一体的に整備し、駅コンコースと市民交流ホールの一休化を行った。

■ 民間が投資してエリアを構築し、役場庁舎部分のみ行政が買い取り。
■ 図書館、地域交流センター、子育て応援センターのほか、マルシェ・カフェ・学習塾・眼科クリニック等の官民複合施設に加え、バレーボール専用アリーナも設置するなど、さまざまな機能をエリア内に構築。

■ 「人つどい 人つながり 人はぐくむ交流の場」をコンセプトに、こどもプラザ（児童館＋子育て学習センター）、男女共同参画センター、図書館、コミュニティセンターの4つの機能に加え、屋外の芝生広場にはさまざまな遊具や防災設備を備えた施設。（Miraie）
■ まちなか交流広場として、誰もが自由に立ち寄ることができる多目的の施設。ポイントは民間のレストランがあり施設の価値、集う楽しみの向上、企画する段階から民間の知恵を入れた。（ステージえんがわ）



先進地事例紹介の様子

第3部 — 7つのグループに分かれて意見出し —

「全町単位あるいは近隣市町との連携で必要なサービス（施設）のあり方」について、これまでの各地域での意見を集約した事務局作成のたたき台をもとに、7つのグループに分かれて意見を出し合いました。また、参加者は他のグループを巡り、気付きや学びをグループで共有しさらに対話を深めました。最後に、各グループをサポートしていただいた3人のファシリテーターから、グループ内のまとめと講評をしていただきました。



公共交通手段の確保が問題

（一社）地域問題研究所理事長 青山公三氏

※グループ4・5での主な意見
▼公共施設を減らすだけの議論なら必要なし。むしろ複合化することで維持につなげないと施設の議論ははかないものになってしまう。

▼儲かるか、儲からないのかの視点だけでなく、幸福かそうでないかの視点も必要ではないか。

▼施設単体で考えても議論が狭くなるので、点ではなく線やネットワークで考えないといけない。ここで重要なのは、ネットワークを結ぶ公共交通手段の確保が課題。10年後には自動運転などでも無人の小型バスが町内を走っているかもしれないが、当面はスクールバスや福祉バスを上手く活用してはどうか。

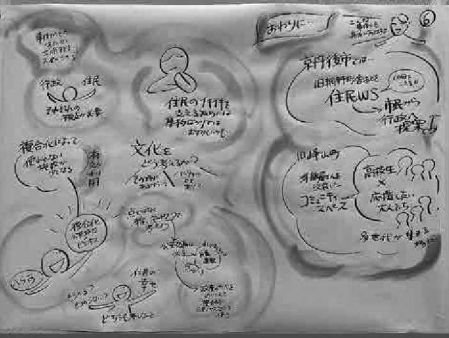
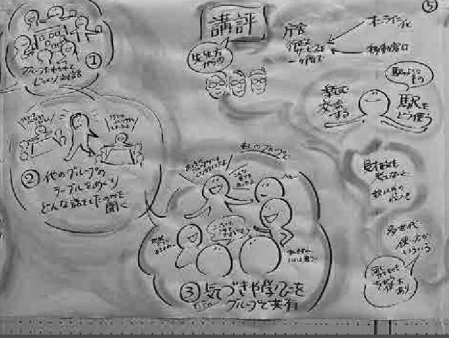
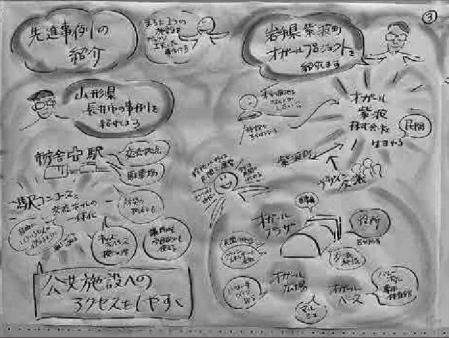
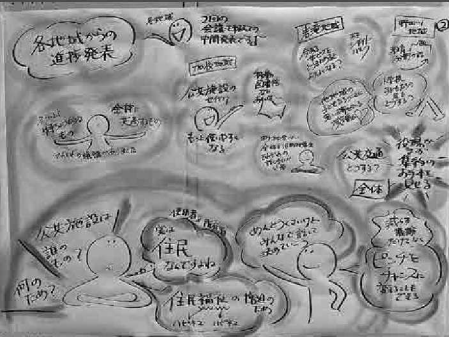
アナログとバーチャルの併用

京都産業大学教授 滋野浩教氏

※グループ6・7での主な意見
▼公共施設は確かに私たち住民のものだけれど、行政もしっかりしなければならぬ。

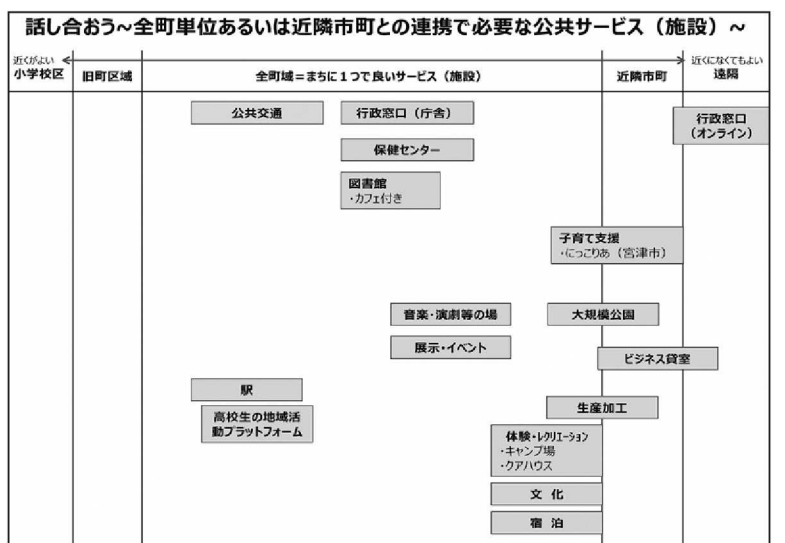
▼あまり使われていない施設は、複数の部署・団体が共用することで効率化や集約ができるのではないかと。また、図書館と文化施設、イベント関係も集約できるのではないかと。

▼近隣の自治体に任せてよい施設もあるが、実は近くにあった方がよい施設もあるのではないかと。
▼文化はまちの魅力を伝えるものであって、古墳公園や旧尾藤家住宅などはそこにあることに価値がある。一方でバーチャルで伝えられる文化もあるのではないかと。



グラフィックレコーディング中の奥野さん

今回、グラフィックレコーディングを依頼したのは奥野美里さん。会場内での発言や状況を見事なイラストと色使いで表現していただきました（写真左）。この手法は、発言内容をリアルタイムに「見える化」することで、会議の流れや言葉だけでは伝わりにくいことを共有できるなどの利点があります。



各グループに配布したワークシート